

# CBC NEWS LETTER

Vol.12, No.2, Jan.2012



国立大学法人  
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニュースレター [Vol.12, No.2]

## INDEX

1. ビジネス創造センターと全北大学校(韓国)間で連携協定を締結
2. 北洋銀行ものづくりテクノフェア2011に出展
3. ビジネスEXPOに出展
4. CBCセミナーを開催
5. 三大学共同研究センター臨時情報交換会を札幌サテライトで開催
6. 学生論文賞の審査を開始
7. 教員紹介ビデオを製作中
8. 主要日誌

1

## ビジネス創造センターと全北大学校(韓国)間で連携協定を締結

ビジネス創造センターは八木宏樹教授(一般教育等)による「北海道の食品、食材に関する日韓共同マーケティングリサーチ」を支援しており、2011年度は李濟民センター長を研究統括として、この研究を推進する小樽商科大学重点領域推進研究経費プロジェクトを運営しています。

同研究は八木教授が社団法人北海道食品産業協議会や韓国の有力国立大学である全北大学校オム・ヨンスク教授らと準備してきたもので、北海道と韓国それぞれの食品産業の互恵的な発展と海外展開を目標としています。また、韓国政府が全羅北道益山市に建設中の「韓国国家食品クラスターFoodpolis」への北海道の食品産業の参入の支援も視野に入れています。現在は日韓それぞれ企業、消費者双方に対するマーケティングリサーチを実施中で、今後は海外進出に伴うリスク分析も行う予定です。

研究チームは2011年6、9、11月に全北大学校を訪問し、第1回ワークショップを実施するとともに、研究推進のため、「全北大学校バイオ食品素材開発及び産業化研究センター」「全北大学校扶安桑の実RIS事業団」「社団法人エコビジョン研究所」と本学ビジネス創造センターとの間で3件の連携協定を締結しました。先方からの来訪は2012年2月を予定しています。



調印式



記念撮影

## 2

## 北洋銀行ものづくりテクノフェア2011に出展

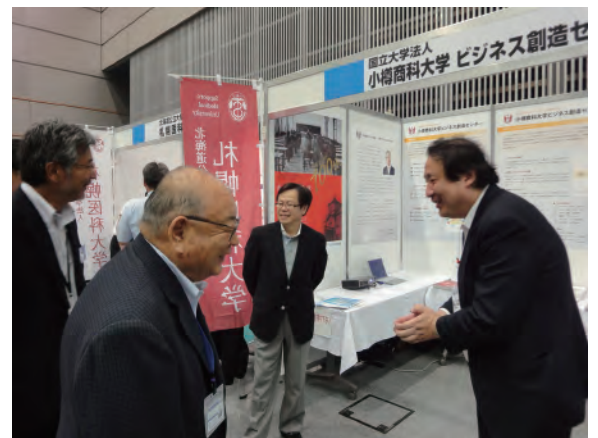
8月19日(金)に札幌コンベンションセンターにて開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア2011」に出展しました。

このフェアは、「優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が一堂に会する場を提供し、販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図る」ものです。2007年より開催され、今年は過去最多の149社の出展がありました。来場者も約3500人にのぼり、充実したイベントでした。

ビジネス創造センターは、「産学官金連携」コーナーに出展しました。社会科学系の地域共同研究センターとして、「ものづくり」を支援するセンターの活動と大学の紹介をポスター展示、DVDの上映、資料の配付で行い、李センター長、澤田副センター長、今野助手が来場者に対応しました。センターでは今年度より提携コンサルタントを起用した「CBCビジネスサポート」を開始しますが、この制度への来場者の関心は高かったようです。また、学部、OBSの卒業生の方も立ち寄られ、情報交換が行われました。



CBCのブース



来場者対応をする李済民センター長(右から2人目)と澤田芳郎副センター長(右)

## 3

## ビジネスEXPOに出展

10月10日(木)ー11日(金)にアクセスサッポロで開催されたビジネスEXPO「第25回 北海道 技術・ビジネス交流会」(主催:北海道技術・ビジネス交流会実行委員会)に出展しました。

このイベントは道内最大級のビジネスイベントで、今回は313の道内外企業・団体・大学・研究機関が出展し、2日間の来場者は約1万8千人でした。

ビジネス創造センターの出展は平成17年以来6年ぶりで、以前は「国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター」名で出展していましたが、今回は「国立大学法人小樽商科大学」名での出展となりました。



来場者対応をする李済民センター長(左)

## 3

ブースでは小樽商科大学、ビジネス創造センター紹介のポスター展示、パンフレットの配布、DVDの上映を行いました。小樽商大が100周年を迎えたばかりということもあって関心は高く、両日合わせて約20名に対応しました。

10日は李済民センター長と今野茂代助手、11日は澤田芳郎副センター長、田中志帆事務補佐員がブースで来場者の対応にあたりました。



CBCのブース

## 4

## CBCセミナーを開催

9月5日(月)に情報処理学会 情報システムと社会環境研究会ならびにビジネス創造センターの主催、小樽商科大学地域研究会の共催でCBCセミナーを本学5号館370教室にて開催しました。

今回のCBCセミナーは9月5日-6日に小樽商科大学で開催された「第117回 情報システムと社会環境研究会」の特別セッションとして行われたもので、テーマは「『つながり』を創り出す情報システム-「知の循環構造」の構築を目指して-」。学際的研究者と実践的な取り組みを行っている企業人から、さまざまな経済活動や行政の中でITが活用されている実態と将来構想について5つの報告がありました。

参加者は情報処理学会の会員のほか一般の参加もあり、56名となりました。コーディネータは深田秀実准教授(小樽商科大学社会情報学科)が務めました。



### プログラム

【14:40-15:40】

発表1: 農業クラウドによる農業生産者の課題解決への取り組み

山崎富弘(富士通株式会社)

発表2: 北海道における自治体クラウドの取り組み

白井芳明, 八重樫裕司(株式会社HARP)

【15:50-17:20】

発表3: スマートフィッシュプロジェクト-釧路での事例紹介を中心として-

末次信治(日本IBM株式会社)

発表4: 函館観光情報サイト“はこぶら”の構築を通じた実践的ICT教育

奥野 拓(公立はこだて未来大学)

発表5: 情報システム研究とヒューマンファクターとの接点

平沢尚毅(小樽商科大学)

## 5

## 三大学共同研究センター臨時情報交換会を 札幌サテライトで開催

2005年度から本学ビジネス創造センターと滋賀大学産業共同研究センター、福島大学地域創造支援センターの間で開催されてきた「三大学共同研究センター定期情報交換会」は、2010年度に二巡目を終えて円満終了しました。



が、滋賀大学センターの呼びかけにより、臨時情報交換会を2011年12月8日に本学札幌サテライトで実施しました。福島大学は新谷崇一センター長(副学長)、丹治惣兵衛教授、事務職員渡辺弘利氏、滋賀大学は野本明成センター長、山本卓特任教授、中井光男特任教授、若林忠彦特任教授、本学は李濟民センター長、澤田芳郎教授、今野茂代助手が参加しました。

情報交換会は李濟民センター長の挨拶で始まり、三大学センターがそれぞれ活動概要を紹介(各15分)。続いて福島大学の丹治教授(同大学「うつくしまふくしま未来支援センター」企画・コーディネイト部門長兼任)から福島大学の震災対応と放射能除染ほかに関する講演(1時間)がありました。さらに各地域の観光活性化への取組紹介と全体討議(2時間)を行いました。滋賀大学は若林特任教授による研究発表、本学は澤田教授による南相馬市復興シンポジウム聴講、福島市観光物産協会ヒアリング、スパリゾートハワイアンズ(いわき市)視察の結果等を報告して議論に供しました。

このように、今回の情報交換会は観光を切り口に巨大災害をどう受け止めるかをテーマとするものとなりました。参加者全員による真摯な議論を通して十分な情報交換を行いました。

## 6

## 学生論文賞の審査を開始

小樽商科大学学術研究奨励事業「平成23年度 学生論文賞」の第1次審査会を11月9日(水)に開催しました。同賞は小樽商科大学学術研究奨励事業学生論文賞実施委員会の主催、ビジネス創造センターと教育開発センターの共催で実施されています。また副賞賞金は北洋銀行からご提供いただいています。



開会式(中村秀雄実施委員長による挨拶)



プレゼンテーション

今年度は学部生50編、大学院生1編が研究内容のプレゼンテーションによる審査に臨みました。104番教室で開会式が行われたあと、4会場に分かれ、のべ232人(実員数28人)の教員が審査にあたりました。審査方法は6分間のプレゼンテーションと2分間の質疑応答を行うものでした。プレゼンテーションは公開形式で、応募者以外の学生も聴講しました。

審査結果は11月16日に発表され、論文による第2次審査に進むのは学部生27編となりました。

## 7

## 教員紹介ビデオを製作中

当センターではこのたび、3名の本学教員について、その活動を紹介するビデオ(各3分)を製作しました。紹介した教員とその活動は次のとおりです。

#### 八木宏樹教授(商学部一般教育等)

##### 「北海道産の食品、食材に関する日韓共同マーケティングリサーチ」

2011年度から北海道産の食品、食材に関するマーケティングリサーチを全北大学校(韓国)の研究者および社団法人北海道食品産業協議会とともに推進中。韓国の「国家食品クラスター」(全羅北道益山市)への北海道の食品産業の参入についても検討。

#### 近藤公彦教授(商学研究科アントレプレナーシップ専攻)

##### 「函館マリンバイオクラスター」

2011年度から文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「函館マリンバイオクラスター」に参加し、北海道大学大学院水産科学研究院、北海道立工業技術センターの研究者らと事業計画を検討中。

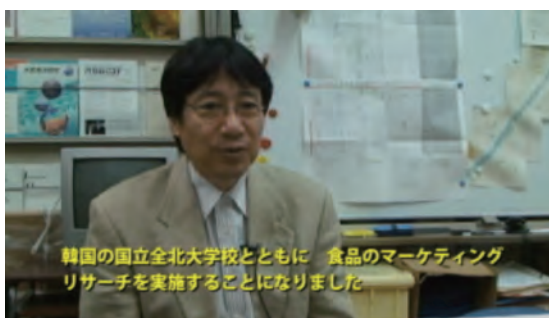
#### 大津晶准教授(商学部社会情報学科)

##### 「本<sup>マジ</sup>気プロ」

2009年度から学部授業「地域連携キャリア開発」で、「商大生が小樽の活性化について本<sup>マジ</sup>気で考えるプロジェクト」を実施。市役所や商店街におけるフィールドワークを通して、地域課題の解決策を学生が提案、実践する。

これらは当センターの澤田芳郎教授がたまたま映像編集のスキルを持つことから、センター長の指示により製作したもので、センター紹介の講演時や訪問者来訪時に上映して好評を得ています。

将来的には多数の教員紹介をする製作予定で、WEB掲載なども検討しています。



八木宏樹教授



近藤公彦教授(左)と澤田芳郎教授



大津晶准教授

## 8

## 主要日誌（平成23年9月1日－平成23年12月31日）

CBC運営委員会	
9月 1日(木) - 2日(金)	第24回 国立大学法人共同研究センター専任教員会議(於:ホテルモナーク鳥取(鳥取市)) 澤田芳郎副センター長、今野茂代助手出席
9月 5日(月)	CBCセミナー(主催:情報処理学会 情報システムと社会環境研究会、小樽商科大学ビジネス創造センター 共催:小樽商科大学地域研究会)
9月 6日(火) - 8日(木)	韓国研究機関との国際交流協力協定締結(於:全北大学校(韓国全羅北道全州市)) 李済民センター長、澤田芳郎副センター長、中村秀雄研究部主任、八木宏樹教授出席
9月 9日(金)	神奈川県議会CBC視察
9月21日(水)	李済民センター長、羊蹄山麓大学講義(主催:北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部、小樽商科大学 於:ようてい農協(倶知安町))
9月27日(月)	ノーステック財団CBC視察
10月12日(水)	第5回主任会議
10月14日(金)	運営会議(持ち回り) 審議事項:1.平成23年度予算執行実績(見込)調書(第2次)について
10月18日(火)	国際ロータリークラブ研修・見学会
10月26日(水)	第2回学生論文賞実施委員会
10月29日(土)	李済民センター長、後志ものづくりフォーラムパネリスト(主催:小樽市、北海道職業能力開発大学校、北海道新聞社 於:小樽経済センター)
11月 2日(水)	学生論文賞第1次審査(プレゼンテーション)オリエンテーション
11月 9日(水)	学生論文賞第1次審査会
11月10日(木) -11日(金)	ビジネスEXPO「第25回 北海道 技術・ビジネス交流会」(主催:北海道技術・ビジネス交流会実行委員会 於:アクセスサッポロ)
11月14日(月)	李済民センター長、国際観光人材育成研修講義(北海道委託国際観光人材能力向上モデル事業受託:キャリアバンク 於:キャリアバンク(札幌市))
11月16日(水)	全道産学官連携ネットワーク会議(於:北海道庁)李済民センター長、澤田芳郎副センター長出席
11月17日(木) -20日(日)	韓国ソウル特別市友好提携周年経済交流会事業(主催:北海道 於:韓国ソウル市) 李済民センター長参加
11月22日(水)	第6回主任会議
11月24日(木) -25日(金)	第23回国立大学法人共同研究センター長等会議(於:オークラアクティビティホテル浜松(浜松市)) 李済民センター長、澤田芳郎副センター長、蔵重治企画・評価室研究協力係長出席
12月 8日(木)	三大学共同研究センター臨時情報交換会(於:札幌サテライト)

## 投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

- 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部

Eメール: [cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp)

国立大学法人  
小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)  
〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号  
事務室 TEL 0134-27-5290  
FAX 0134-27-5293  
Eメール [cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp)